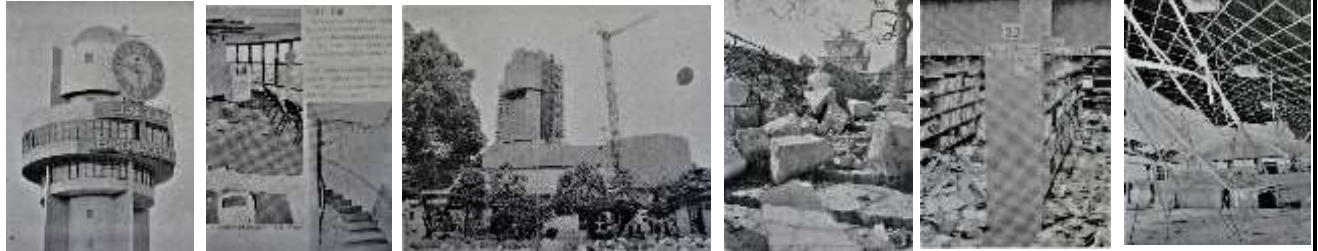


**阪神・淡路大震災と明石 ～1.17 震災から 25 年～**

平成 7 年(1995)1 月 17 日午前 5 時 46 分に発生した兵庫県南部地震(震源地:淡路島北部 地震の大きさ:マグニチュード 7.3、最大震度 7)から今年で 25 年を迎えました。この地震による大災害、阪神・淡路大震災は、関連死を含めた死者が 6,400 名を超え、建物の倒壊、火災発生など甚大な人的被害、経済的被害をもたらしました。

明石市のホームページによると、震源地に近い明石市は死者 26 人(市内 11 人、市外 15 人)、負傷者 1,884 人(重傷 139 人、軽傷 1,745 人)、家屋の全半壊 1 万近く(全壊家屋 2,941 棟 4,239 世帯、半壊家屋 6,673 棟 10,957 世帯)、避難者最大時 3,369 人(23 か所)、ライフライン被害(水道 78,000 世帯、電話 800 回線、電気全戸停電、都市ガス 24,200 世帯)など未曾有の大被害を受けました。



『兵庫県南部地震明石市5周年誌』には、1 か月間、5 時 46 分を指したまま止まっていた天文科学館大時計や内部の写真、天文科学館再開に向けて行われた新大時計の取り付け工事(平成 9 年 6 月 18 日)の写真、明石公園の明石城跡の石垣被害や明石市立図書館、藤江小学校体育館の被災写真などが掲載されています。また、天文科学館は地震発生から 3 年 2 か月(平成 10 年)で見事に復活、市民が待ち望んだ雄姿を見せ、国の重要文化財明石城櫓も 5 年の年月を経て蘇ったと記載されています。



**「1.17 ひょうご安全の日宣言」(抜粋)** 2020 年 1 月 17 日 ひょうご安全の日推進県民会議(会長 井戸敏三兵庫県知事)  
 ボランティア こころのケア 生活再建支援制度 創造的復興を目指す中で 社会を支える新たな「しくみ」も生まれた・・・  
 令和の時代が希望の時代になることを願い 新しい時代を災害で特徴づけてはいけぬ 災害を他人事と考えず正視して対処することが大切だ 震災から四半世紀 若者世代にその記憶はない いまこそ 震災から生まれた「しくみ」を育て 次世代につなぎ  
 「災害文化」として定着させなければならない 日常防災を豊かにして 安全安心社会に向かうのだ  
 忘れない 伝える 活かす 備える 阪神・淡路大震災の教訓を 震災の教訓は すべての時代に通じる知恵だから

**【阪神・淡路大震災の記憶を未来につなぐ震災モニュメント】**

**○明石公園 2メートル9センチの詩碑 (明石市明石公園)**

親子連れが憩う兵庫県立明石公園の正面入り口奥。西芝生広場に白御影石の碑が立っている。震災を記録する記念碑だ。

高さは二メートル九センチ。プロレスラーの故ジャイアント馬場さんの身長と同じだ。馬場さんは、夫人の出身地が明石だったことから、この地と縁が深かった。碑は一九九八年、当時、全日本プロレス代表だった馬場さんが、興行で募った震災義援金を明石ロータリークラブに寄付し、建立された。

これはいつかあったこと これはいつかあること だからよく記憶すること  
 だから繰り返し記憶すること このさきわたしたちが生きるのびるために

碑には「明石の震災を忘れないために」と、神戸市長田区在住の詩人安永稔和さんが作った詩が刻まれる。・・・「全壊家屋の戸数など、細かく記録した」と話すのは当時、同RC会長として尽力した医師の田路良博さん(79)。

田路さんは「馬場さんの明石に対する思い入れはかなり深かった。奥さんの実家も震災で全壊したということもあり、なんとか明石市民のために尽くしたい」と話していた」と振り返る。・・・(神戸新聞 2004 年 9 月 16 日記事より抜粋)



**○明石駅南 銀座とおりの石碑**

JR、山陽電車の明石駅から南、国道 2 号線交差点の南東角。明石市桜町の明石銀座商店街の北側入り口にあり。「兵庫県南部地震を偲ぶ碑」は、明石市老年クラブ連合会によって、1998 年 3 月 17 日に建立され、市に寄贈されました。石碑の下には、震災当時の体験記録、写真、新聞記事などを詰めたタイムカプセルが保管され、「震災半世紀」に開かれるそうです。(「95.1.17 を伝えて 震災モニュメントマップ」より)

